シャクヤク園
Peony Garden

黄色はボタンの遺伝子

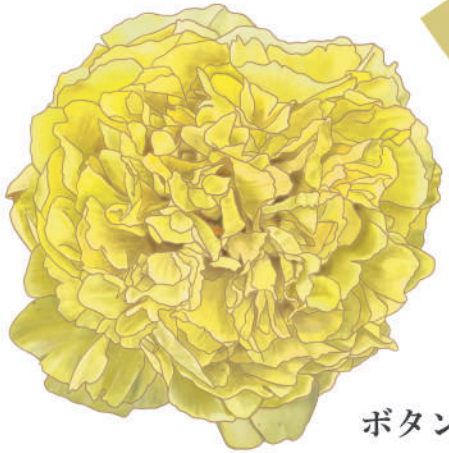
もともとシャクヤクには黄色い花がありませんでした。
黄色いシャクヤクを生み出すために使われたのがボタンです。
世界初の黄色いシャクヤクを誕生させたのは、伊藤東一という
日本の園芸家で明治時代のことでした。
開発した黄色いシャクヤクの苗木はアメリカに渡って改良を
重ねられ、伊藤東一の没後に開花が確認されました。
彼の作出した黄色いシャクヤクは、
Itoh Hybrid（伊藤ハイブリット）、Itoh Peony（伊藤ピオニー）
と呼ばれ、優秀な品種としてアメリカで表彰されています。

ハイブリッドシャクヤク
“オリエンタルゴールド”

アメリカで花開いた
世界初の黄色のシャクヤク

シャクヤク
“花香殿（カコウデン）”

交配



ボタン
“金晃（キンコウ）”

シャクヤク園について
長居植物園 HP